

1 日時

令和2年8月27日（木）
午後2時～3時

2 場所

県正庁

3 出席者（敬称略）

秋田県知事 佐竹 敬久

秋田県教育委員会

教育長 安田 浩幸

委員 岩佐 信宏（教育長職務代理者）

委員 伊藤 佐知子

委員 大塚 和歌子

委員 伊勢 昌弘

委員 吉村 昌之

4 議事

議題1 新型コロナウイルス感染症対策下における学校教育について

議題2 文化財の保存と活用について

5 配付資料

資料1 ICTを活用した教育の推進について

資料2 文化財の保存と活用について

資料3 秋田県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱（案）

資料4 秋田県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱（概要版）（案）

開 会

（神部総務部長）

ただ今から、令和2年度第1回秋田県総合教育会議を開催いたします。

本日の会議は、秋田県総合教育会議運営要綱の規定により、公開となっておりますので、御了承いただきたいと思ます。

それでは、開会に当たり、佐竹知事から御挨拶を申し上げます。

知事挨拶

（佐竹知事）

教育委員の皆様には、大変お忙しい中、また、この夏一番の暑さの中、お集まりいただき、ありがとうございます。

また、日頃教育の推進に様々御尽力を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げます。

さて、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、誰も想定してはいなかったことですが、多方面で大変な影響を受けております。

教育界も、4月から5月にかけての休校の延長で、夏休みや通常の授業に様々な影響があり、子どもたちにとっても、本当に落ち着かない半年であったと思います。

また、勉強はもとより、部活動、スポーツや文化活動全てにおいても、大きな大会が中止となり、部活動に全力を傾けている子どもたちが、自分の思いを發揮することなく卒業するという状況となり、いろいろな面で子どもたちの心に残るものがあつたのではないかと思います。

そのような中で、リモート授業などの様々な新しい手法、あるいは学校における衛生管理など、様々な問題が一気に凝縮して、新型コロナウイルスの影響により表面化したとも捉えられております。

新型コロナウイルスがいつ終息するかはまだ分かりませんが、例えば、産業界が非常に低迷し、親御さんの事業や経済状態も非常に不安定になっている状況です。このような状況下で、どのように子どもたちを将来に向かって育て、送り出すかということが喫緊の課題です。

私は、常に祖父から「平穩無事な世の中は、歴史上ない。常に何か混乱がある。混乱の中に生きる力、そしてそこから学ぶ力を付けることは、個人としても、

地域としても、国としてもたいへん重要なことだ。」
ということを教えられました。いつも同じ平和という
ことはありえないということ、この経験から学ぶこ
とも必要ではないかと思えます。

我々大人が子どもたちをどのように導いていくか、
そして子どもたちをしっかりと次の世代に送り出せるか
ということが、今問われていると思えます。

一方で、改正文化財保護法が昨年施行されたところ
ですが、文化財の継承が今大変な課題になっています。

文化財の観光利用についても、様々に良い面や弊害
もあり、貴重な文化財をどのように後世に残していく
かという問題も、長い目で見れば、重要な課題です。

短い時間ではありますが、本日はこの2点について、
皆様と意見交換したいと思えますので、よろしくお願
いいたします。

(神部総務部長)

つづきまして、秋田県教育委員会安田教育長から御
挨拶をお願いいたします。

教育長挨拶

(安田教育長)

日頃、知事を始め知事部局の皆様には、教育行政に
対して、御理解と御協力を頂いておりますことに、こ
の場を借りて、感謝申し上げます。

この会議は、知事と教育委員会をつなぐ貴重な機会
であり、学校教育の現状について情報を共有するとと
もに、今後どう取り組んでいくか意見交換を行うもの
です。

今回は特に、前半の議題であります「新型コロナウ
イルス感染症対策下における学校教育について」です
が、ICTを活用した教育の話題を中心に、今後の学
校教育について御意見を伺うということにしています。

本日のこの会議をきっかけに、一層協力を賜りなが
ら、コロナ禍であっても力強く、秋田県の教育を進め
てまいりたいと考えています。

また、2つ目の議題の「文化財の保存と活用の推進
について」ですが、現在、「北海道・北東北の縄文遺
跡群」のユネスコ世界文化遺産への登録に向けた取組

が展開されており、現在各方面から、様々な御支援を
頂いているところです。

文化財については、保存だけに目を向けるのではな
く、県内外の方々に広く知っていただくとともに、そ
の活用についても、併せて進めることを国から求めら
れています。

そのために、今回「秋田県文化財保存活用大綱」を
新たに策定することとしており、その策定に当たって
は、教育委員会と知事部局がより一層連携していく必
要があるものと考えていますので、よろしくお願いま
す。

以上、簡単ですが、開会に当たっての挨拶とします。
どうぞよろしくお願いいたします。

議事

(神部総務部長)

それでは、議事に入ります。

会議の議長は、運営要綱により知事となっております
ので、知事に進行をお願いいたします。

(佐竹知事)

それでは、議事に入ります。

初めに「議題1 新型コロナウイルス感染症対策下
における学校教育について」です。資料1をお開きく
ださい。

ただ今申し上げましたように、今年に入ってから、
新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、休校措置がと
られるなど、学校現場においても、これまで経験した
ことのない状況に直面しています。

こうした中で、休校中に、YouTubeによる授
業配信やウェブ会議ソフトによる学校間の交流を行っ
た学校があると聞いています。

教育長から、このような対応を含めて、今後のICT
を活用した教育の推進などについて、御説明いただ
きたいと思えます。

(安田教育長)

お手元に資料「ICTを活用した教育の推進につい
て」が配付されていますが、今回の臨時休業の間に、

一部の学校では、家庭のパソコンやタブレットなどを利用した遠隔授業などが実施されています。

その状況について、メリットや課題について、現場からの声を高校教育課からスライドで紹介させていただきたいと思います。

(高校教育課 伊藤指導主事)

それでは、高等学校のICTの活用の現状についてスライドで説明いたします。

臨時休業中のICT活用については、オンライン授業を実施した学校は、47校中13校でした。

また、部活動や生徒会活動などで、オンラインを活用した学校や、オンラインによるホームルーム健康調査を実施した学校もありました。

臨時休業後においても、学校間の交流や講演会などをオンラインで実施するといった取組も見られました。

それでは、各校の実践について、いくつか紹介したいと思います。

初めに、仁賀保高校のYouTubeによる授業動画の配信の取組です。スライドの写真は、情報メディア科の授業配信の様子です。動画を配信するだけでなく、学校のサイトに掲示板を設け質問に対応するなど、授業後の指導についても工夫が見られました。今後実施する学校にとって、参考になる取組であります。

次に、十和田高校硬式野球部の「HomeTOWADA」プロジェクトです。この取組は、Facebookを活用し、臨時休業中に家庭で自主練習に取り組む部員の気持ちを一つにつないだ意欲的な取組です。「コロナに負けるな。置かれた状況でベストを尽くそう。」など顧問の教員のメッセージが印象的です。コロナで練習ができない、ではなく、今しかできない学びで自分を高められる時間にしたいという生徒の感想に見られるように、新しい生活様式に対応した部活動のあり方を示した取組と言えます。

つづいて、学校再開後の取組について紹介します。まずは、学校をオンラインで結んだ英語によるディベート活動の取組です。ウェブ会議ソフトを活用し、相手校と英語によって討議をして対戦するという活動です。学校からは、実際に対面して行うよりも、一体感

のある白熱した活動になったという報告を受けています。今後はこのような取組を更に広めていきたいと考えています。実施した学校は、大館鳳鳴高校、角館高校の2校間と、花輪高校、大館国際情報学院高校、大館桂桜高校の3校間でした。オンラインで大学教員等の出前講義を受けたり、海外の大学・高校と交流したりした高校もありました。

横手高校では、スーパーサイエンスハイスクールのプログラムとして、秋田県立大学の出前講義の実施や、台湾の大同大学の大学生とウェブ会議ソフトを活用した交流を行っています。ほかにも、外部講師の講演会を実施した高校が複数ありました。コロナ禍においても、学びを止めないという学校の姿勢が表れています。

課題としては、ICT環境の整備、Wi-Fi環境のない家庭への支援、教員のICT活用指導能力の向上の3点が挙げられます。特に、家庭へのWi-Fi環境の支援については、5月の調査で、家庭にWi-Fi環境がないと回答した生徒は、1,289人でした。全体の6.7%となっており、今後の課題となっています。また、授業にICTを活用して指導できると答えた教員の割合は64.7%でした。全国平均を下回っている結果であり、ICT活用における教員の資質能力の向上も大きな課題と捉えています。

今後の見通しですが、「e-AKITA ICT学び推進プラン」による今年度中のICT環境の整備、そしてICTを活用した新しい生活様式への対応、教員研修の充実を図ってまいりたいと考えています。特に教員研修については、ICTを活用した優れた実践をしている教員を、ICT活用推進委員として任命し、既に8月には、県内3地区で、ベーシック講座を実施しました。スライドの写真は、県北地区会場の様子です。電子黒板を使った研修の風景です。また、各校にICT活用推進リーダーを置き、各校の校内研修の充実を図ってまいりたいと考えております。

ICTの現状についての説明は以上です。

(安田教育長)

いろいろ工夫している学校もありますが、今回は急な対応ということで、やはりまだまだ課題が多く、遠

隔授業などの対応については、今後検討していく必要があると感じているところです。

なお、端末については、県立高校に関しては今年度中に、小中学校に関しては、市町村によって差がありますが、ほぼ今年度中に児童生徒1人に1台、タブレット端末を用意する予定です。

また、タブレットの準備だけでなく、教員の研修の方も進めていきたいと考えています。

(佐竹知事)

それでは、委員の皆様から御意見や御質問を伺いたいと思います。

拳手をお願いします。

(伊勢委員)

先ほど知事から、コロナも悪いことばかりではないという話がありましたが、このコロナがあったことによって、強制的にリモートなどについて取り組まなければならない場面が出てきました。

ICTの教育を始めようとした時にコロナが発生したというのは、偶然ではありますが、何か運命的なものを感じました。

コロナ自体は良くないわけですが、それによって、集まることができず、リモートなどICTを活用せざるをえなくなった状態ができたことは、チャンスでもあると思っています。

先ほどのスライドで、県内でも様々な良い活動がなされているようですが、これがもっと広まってくればよいと思います。

(大塚委員)

今後どのような状況になろうと、もうビフォーコロナには戻れないと、ひしひしと感じています。

日常生活はオンラインかオフラインという生活が常態化し、ICTの活用が今まで以上に革新性を持った学びに活用されていくと思います。要するに、先ほどスライドにもあったとおり、オンラインでの学びが常態化することになると思います。

ですが、人が生きるためには、何か希望というもの

が必要だと思っており、その希望をICTの活用といった学びにつなげていけるような流れを作っていく必要があるのではないかと考えています。

学校現場で先生と会うとか、教室に集うことが、今までは普通だったけれども、いつ集まることができなくなるか分かりません。だからこそ、生身の人と会うことの価値を認識する、大事な時代が来ると思います。心はオンラインという感じで、子どもたちを育てていけたら良いと思います。

個人的には、コロナによって自分の大学生の娘が東京から帰って来られず、Zoomを使って、会話したり、2〜3時間お互いに黙って勉強したり、そういうことをしょっちゅうやっているの、これはドラえもんどこでもドアみたいだね、と話しています。

実際に会うことできないけれども、ICTの活用によって子どもと接することができるちょっとした希望のように感じることもあり、これがまた希望につながれば良いと思っています。

(岩佐委員)

先ほど、伊勢委員がコロナ禍はチャンスじゃないかとおっしゃいましたが、私もやり方によってはチャンスに変わると思います。

コロナをきっかけにして、様々なICT機器の導入や、リモート授業のノウハウが蓄積されてきたと思います。

先ほど、高校教育課から各校の取組が紹介されましたが、アフターコロナではそういったものが当たり前になり、今回の取組が生かせるのではないかと考えます。

アフターコロナの教育、あるいはICTの導入は、必ずしも既存の教育の代替品ではないと思います。アフターコロナの取組で、良いものは取り入れて、更にもっと良いものに置き換えることができます。

そういう意味で、このコロナを一つのチャンスと捉え、これをスプリングボードとして、もう一つ上の次元に行けないかと考えています。

例えば、専門学科の教師などは、小さい高校だとなかなか呼べません。そういったものをリモートで取り

入れたり、あるいはスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、スクールロイヤーなど、即時に対応する必要があるものをリモートでつないだり、すぐに対応することができないかと考えています。

あとは、タブレットといった通信インフラなどは、導入してもすぐに陳腐化してくることが心配されます。5年経ったら、使い物にならなくなってしまうおそれもあるのではないかと心配しています。

そういった先を見越して、予算立ても考えたほうが良いと思いました。

(吉村委員)

まず、オンライン授業については、コロナ禍によりGIGAスクール構想が前倒しになったわけですが、先ほど紹介してもらったとおり、課題の方は、ICT環境の整備、家庭支援、教員の技術向上といったものがあります。これは、やはり国や県に力を貸していただきながら、サポートしていただければと思っています。

ただ、このICTオンライン学習により、全てがこれで良くなるわけではないと思いますが、先ほど岩佐委員が言われたように、今までの授業と同じ形ではなく、それを上回るものにしていければ一番良いと思います。

例えば、個々のレベルに合わせて学ぶことができるような、習熟度別の学習がそれぞれできるようになってくるのではないかと考えています。

今までは、クラスの子どもたちを、どうしても一律のような形で、いわば記憶させる学びの形だと思いましたが、これが個々のレベルに合わせて学び直しもできるような形が、オンライン学習ではできないのではないかと思います。

これには、不登校の子どもたちが参加してくれています。青森市の例ですが、不登校の子の7割がオンライン授業に参加し、そのうち9割が、再開後に学校に来たという例もあります。そういう部分では、メリットがあるのではないかと考えています。

あとは、デメリットとしては、やはり子どもたちの集中力が切れてしまう点や、目の前に生徒が居ないの

で反応が分からないという先生方にとってのデメリットはあると思います。

しかし、今後はこういう形と、対面のハイブリット型といいますか、両方を兼ね備えた教育というのが主になってくると思いますので、また、様々な面でお力添えいただければと思います。

もう一つ、8月3日に全国知事会から、子どもたちの心のケアということで、国に対して要望いただきまして、本当にありがとうございます。コロナ禍で、子どもたちのストレスもありますが、それは子どもたちだけではなくて、先生方についても、メンタルヘルスケアも重要ではないかと思っています。

今までにないことをやらなければいけないことが多々あり、予想以上の仕事量もありますので、そういう部分でもフォローしていければ良いと思っています。よろしくお願いします。

(伊藤委員)

やはり、今回のコロナの件で、今まで見えないものがたくさん見えてきて、特に地域格差、地域の問題というものが、もしかしたらあまり差がなくなってくることもありえると思いました。

これまで、例えば地域の衰退によって、中央に流れてくる方々もいましたが、そういった人たちをもっと、地域にとどめおける機会にもなるのではないかと若干期待しています。

ただ、地域にいるのは高齢の方が多いです。ICTや医療も難しいのはそこだと思いますが、そういった意味ではまた違った形になっていくと思います。

これは、教育と直接関係ありませんが、東京では住宅事情が悪く、家族がリモートワークをしていると、家の中が狭くていろいろな問題が起き、ストレスが発生しているということを、テレビでよく見かけます。この機会に、たくさんの方が余っている秋田に引っ越してきて、広くて自然の豊かな秋田でリモートワークを考えてくださるような人を誘致できないものか、特に教育熱心な子連れの家族等に宣伝できたら良いと思います。

(佐竹知事)

それでは、事務局からこれに関する取組を説明してください。

(神部総務部長)

そのような観点は非常に重要であり、我々も同じような認識を持っていました。

国でも、自治体が地域経済の下支えや活性化に向けた財源として使えるよう、臨時的な交付金を創設しました。それを活用して、リモートワークを行う企業に呼びかけ、秋田に誘致するという取組を既に予算化し、取り組んでいます。

具体的には、東証の上場企業約4,000社全てに、ネット上でアンケートなどを行い、意向を確認して、少しでも可能性があるところにはすぐ出向いていき、様々な条件やどういった支援ができるか、どうやったら来ていただけるかといったことを、一対一でオーダーメイドで支援策を考えていくという取組です。

そのほかにも、オフィス環境の整備などの予算もすでに計上して取り組んでいるところですので、そういったアイデアや御意見を頂ければ、また上乘せして検討してまいりたいと思います。

(佐竹知事)

先ほどお話ししたとおり、例えばICT関係では、先進国プラス発展途上国の中でも一番遅れていた日本が、少し世界標準に近づいたということでないかと思えます。

やはり、デジタルデバイドは家庭の経済力にもよります。学生の場合には、その家庭の経済力によっては、機器にある程度費用を掛け、良いものに更新できる家庭がある一方、例えばWi-Fiの設備が無いという家庭もあります。

そういうところを、どう教育面ではフォローしていくかということが非常に重要だと思います。

ただ、最近のSNSの投稿などで動向を見て問題だと考えるのは、物事を起承転結で考えず、端的に捉えすぎているという点です。

例えば、紙の文章を見るときに、我々は全部を俯瞰

するのですが、ICTの場合は俯瞰できないんです。

それによって、脳の回転が非常に遅くなって、思考力が非常に減退する。

SNSを見ますと、相当な高度な教育を受けた人が、とんでもない意見を書いている。やはり、そういった問題もあるんです。ですから、本もしっかり読むことが必要です。

ICTで遠隔的なものをやるからこそ、対面のフェイス・トゥ・フェイスの生の言葉が心に入っていくということもあります。

特に、教育は双方向ですから、情緒的なものと深い思考力に対して、どうこれらを使い分けてバランスをとるかというのは非常に難しい。

全部が全部、ICTでできるわけではない。むしろ、ICTを活用している人ほど、それを感じているようです。

逆に、ICTを活用した方がずっと効率的だという面も確かにあります。

全国知事会でオンライン会議をやったら、非常に効率的にできました。無駄口がないんです。47人が集まると、前後の無駄口が長い。オンライン会議では、非常に端的に要点を踏まえて行えるという良い面もあります。

ただ、5、6人で侃々諤々話し合ってみていくことなどは、意外と難しい。また、同時発言ができませんから、双方向というのなかなか難しい。

そういうものの使い方については、やはり試行錯誤でやっていく方がいいと思います。

いずれ、流れはICTの方向に行きますので、県においても、様々な機器の整備、ソフトの更新、指導者の育成を行い、リアルタイムでどんどん変わっていくICT技術を、いかにうまく使っていくかということが、教育のみならず全ての面で、非常に重要になると思います。

また、今の高齢者はICT機器などを使えませんが、今の40代から50代までは全部使っているので、この方々は高齢者になっても使えます。もう10年たったら、ICTも普通の常識だという時代になると思います。

教育現場でも、そういうことを踏まえながら、うまく活用していくことが必要だと思います。

また、テレワークですが、これは東京からだと多いんです。東京の就業構造は事務職が多いからです。秋田は事務職が少ない。現業職については、リモートができません。ですから、人との接触を8割減らすというコロナ対策も、秋田では難しいのです。現業職でも、ある程度遠隔でできるものはありますが、まだそこまでは増えていない。

今、総務部長が言ったとおり、移住・定住についても、地方の安い住居費、通勤費、生活費、子供の教育などを売りにして、どういうインセンティブがあれば来てもらえるのか、まず意向調査を行う必要があります。

東京の民間企業の社長さんなどに聞くと、これまでの移住・田舎暮らしのイメージとは全く違います。要するに、ゴルフ場や大型スーパーが無いと来ません。やはり、拠点は都市なんです。奥さんも子どもも一緒に来ますから。

また、秋田の中古住宅にはあまり興味がない。マンション暮らしがいいのです。ある程度、東京のマンションよりは安いので。

あまり田舎暮らしを勧めても、逆に難しいです。ゴルフが安くて釣りもできます、良い酒場もあります、高級なレストランもあります、東京とほぼ同じ暮らしが安くできます、ということなんです。

今までの移住・定住における農業志向などの田舎暮らしとは少し違います。祭りがたくさんあるとか、確かにそれも一つの魅力ではありますが、そうではないんです。

都会的な生活を安く、秋田でリモートをやるというところを、どうプロモーションするか、今知恵を絞っています。

次の議題に移ります。

文化財の保存と活用についてです。資料2をお開きください。

人口減少に伴い、文化財を保存・継承していくことが大変難しい時代です。

今後どのように文化財を活用し、次につないでいくかという点について、御意見を伺いたいと思いますので、教育長から説明をお願いします。

(安田教育長)

これまで地域で受け継がれてきた文化財が、その担い手の不足などによって、保存・継承の危機に直面しています。

地域における文化財の状況について、文化財保護室からスライドによって御紹介させていただきます。

(文化財保護室 伊藤学芸主事)

まずは、お祭りの話です。

豪華絢爛な屋台が特徴の「花輪ばやし」ですが、この屋台の運行に携わる人手が足りず、町内によっては、地元以外の人を入れて運行しています。

その人たちの衣装製作のほか、屋台そのものの修理にも県が補助をしています。1台当たりの修理に、約1,000万円掛かります。10台ありますので約1億円に上る見込みです。

平成28年から始めて、現在3台目の修理が終わったところです。具体的な修理は、屋根の葺き替え、金箔の貼り替えですけれども、スライドの写真はまだ貼り替え前の金箔の状態です。

こういった修理を続けて、豪華絢爛な屋台が維持されています。

次に、にかほ市の「アマハゲ」という行事です。

顔を黒く塗った少年2人が神になり、地域の家々を60軒ほど回ります。

衣装は、1か月ほど前に作り始めますが、この衣装を上手に作れる人が、この地区ではスライドの奥に座っている方1名しかいません。

こういった方の技術の継承が課題です。民俗芸能の世界でも、後継者育成が課題になっています。

県では、小学校を会場に、地元の民俗芸能を公開する事業を続けています。

このスライドにある学校では、獅子を演じているのは小学生です。普段の友達の違った姿を見られて、子どもたちの目は釘付けです。

また、このスライドの写真にある別の学校では、演じているのは高校生です。この日は、平日ですので、高校の授業を半日休んでいただき、母校の小学校で演技をしてもらいました。自分たちの知っているお兄さんの格好いい姿が、非常に注目を集めています。

こうした地道な努力によって、重要無形民俗文化財日本一の秋田県が、その基礎を固めております。

つづいて、建物についてです。

旧二ツ井町にありました「天神荘」は、非常に貴重な天然の秋田杉を使った建物ですが、昭和7年建築で、老朽化に加え、米代川の洪水によって大変な被害を受けました。1階はほぼ水没して、建具も流されてしまっています。修復は大変困難なために、平成20年に解体されました。

自然災害だけでなく、手立てを取らなければ、こういった建物はどんどん増えていくと想定されます。

最後に、秋田市の「天徳寺」です。

1687年の創建であり、スライドの写真は修理前の様子ですが、屋根の中央部分がかなりへこんでいます。そこで、平成27年から修理を始めて、総工費約23億円をかけ、現在修理中です。

この修理は、全国で13件しかない特殊修理事業であり、二条城や清水寺と並ぶ大修理になっています。

現在、巨大な覆屋の中で、半解体修理が行われています。

天徳寺に限らず、修理や耐震対策が必要な建物は県内に数多く残されています。

以上です。

(安田教育長)

いくつか紹介してもらいましたが、保存はもちろん、受け継いでいく人材がいなくなっているという課題が挙がりました。

関係人口の創出等も含めて、もっと文化財を他に発信して観光客を呼び込むなど、担い手を増やしていくことがこれからの課題だと思っています。

その活用も含めた「秋田県文化財保存活用大綱」を作成中という話を先ほどしましたが、今後そういった課題を盛り込んでいきたいと考えているところです。

(佐竹知事)

御意見や御質問などがあれば、お願いします。

(岩佐委員)

文化財を活用して、観光や県民の郷土の再発見などのふるさと教育、あるいは郷土愛の醸成につなげていけないかという話をしたいと思います。

去年、トルコのイスタンブールを旅行してきました。たまたま、大学の同級生が単身赴任していましたので、案内していただいて、いろんな世界遺産を見てまわりました。今年は、ギリシャに行こうと思っていましたが、コロナ騒ぎで行けませんでした。

いずれの国を旅行する前にも、プランづくりには、ガイドブックのほか、DVDやYouTubeなどの映像配信サイトをかなり利用しました。

TBSの「世界遺産」というテレビシリーズがあります。前は、秋田でも、BS-TBSで放映していました。

これは、日本でもトップクラスの撮影技術と、よく練り上げられたシナリオによって、画面を見ていると、その場所を実際に訪れているような、臨場感のある作品になっています。

私の子どもも、最近は調べ物のときYouTubeを、まず調べているようです。

私も、YouTubeで秋田と検索してみたところ、いろんな画像が出てきます。クオリティは、玉石混交です。

中には、先ほど話したTBSの番組に劣らないクオリティの作品もありますが、そういった作品は秋田の竿灯とか、角館とか、横手のかまくらなど、メジャーなものであり、幻想的で素晴らしい作品もありました。

文化財保護室の方で、「秋田の宝」というパンフレットを作成していただいて、重要文化財や重要無形文化財、史跡など100件にも及び秋田の宝が網羅されています。

私は、この秋田の宝の作品群を4Kの高画質で、プロによる撮影でフルに編集された作品を是非見てみたいと思っています。ただの記録とか、カタログ的なも

のではなく、感動を生み出す、プロによる映像美をぜひ見てみたいです。先ほどのスライドで紹介されたようなものでも、プロのクオリティのものを見てみたいと思っています。

YouTubeでクオリティの低い動画を見た人から、秋田とはこういうものか、と思われるのはすごく悔しいです。

YouTubeにアップしておけば、スマートフォンでも見ることができますし、特に若い人が見てくれると思います。将来を考えると、結構な投資になると思いますが、そういった投資をしてみても良いのではないかと思います。

そういった文化財を、もちろん観光や、県民の再発見に活用することによって、ふるさと教育にも当然結びつきますし、郷土愛の醸成や、先ほど教育長のおっしゃっていた担い手の育成などにもダイレクトに繋がってくるのではないかと考えています。

そういった意味で、県によるクオリティの高い動画の配信は、とても効果的ではないかと考えていました。

(大塚委員)

文化財の保護については、県民が秋田を再発見するためにどんどん活用していけば良いと思いました。

私も、全然知らない所に行ってみたいと思っていますが、私が提案したいのは、PR動画の作成です。

知事が、例えば、大湯の環状列石や伊勢堂岱遺跡の真ん中に立って、空を見上げて悠久の思いを馳せているのをドローンで撮影するとか、秋田犬と顔をすり合わせるとか、比内鶏を捕まえようとしたら逃げられ、卵をとりましたとか、康楽館の舞台からせり上がってきて、見得を切るなどです。

何かそういうことをすると、あれは康楽館だとか、あの遺跡だということを、例えばCMで何気に見た人が、注目して、あそこに行ってみたいなとか、うちのここに知事が来たんだとか、そういうことで秋田の再発見とか、秋田の宝を再認識することができると思います。

県民向けですが、秋田のファンを拡大するキャンペーンも良いのではないかと思います。

(伊藤委員)

私も、ほとんど同じようなことを考えていまして、SNSとかのメディア絡みの映像と、一方で県内の人たちが県内の史跡を巡るような、県内GoToキャンペーンのようなものがあったら良いと思っていました。

それで、大塚委員の話の続きですが、退職された年配の方々が、県内を遊びに歩いているのをよく見ます。

そういう方は、結構秋田魁新報などの地元紙を読んだり、記事に上がったところを訪れるなどしています。個人的には地元紙などで、秋田の宝シリーズのような連載を組んで、何かコースを作るなどして、もっと県内の方が、回って歩きやすいような、史跡めぐりの旅といったものを働きかけていただくと非常に良いのではないかと考えていました。

(吉村委員)

観光資源という形で捉えれば、やはり五感をどのように刺激するかという部分が大事だと思います。

今はコロナ禍で、なかなか来てもらえないというところで、オンラインやVR、ARなどのデジタルコンテンツを使って、いろいろ発信はできますが、ただ発信するだけだと、今までと多分変わらないと思います。

どのように、民間など地域と連携していくかだと思います。例えば食材を送って、その場で一緒に料理を作る、あるいは秋田犬ツーリズムなどの例があると思います。YouTuberとか、いろんな方がいらっしゃる他、秋田はサッカーやバスケットチームがありますので、そういう方々に御協力いただくことも考えられます。

あとは、アニメ制作会社も誘致されましたので、そういうところに、もしくは文化財の一つをテーマにアニメを作っていただくなどもあります。お金がかかるかもしれませんが。

ふるさと納税が大分上向いてきましたので、例えばQRコードを入れて、それを撮るといろいろな画面が見ることができるのかも効果的だと思います。

結局、今はなかなかリアルに訪れることはできませんので、デジタルを見た後でまたリアルに戻ってくる

など、目で体験したものの、そういうものを、現地でもう1回体験したいと思うような形のものでできれば、とても良いのではないかと考えています。

(伊勢委員)

文化財の活用については、大体皆さんがお話しされたのと同じことですが、私は保存に関して、マニアックな意見だと思いますが、資料2の中に、豊富な地域資源とありますが、私はやはり秋田の文化財の中で、一番アピールできるのは秋田犬じゃないかと思っています。

しかし、秋田犬を飼育する人が少なくなり、ブリーダーの方も高齢化されて、あと10年もすれば誰も育てる人がいなくなってしまうところもあります。

例えば、県庁に秋田犬に関する特別な課を作るとか、思い切ってやっていただきたいと思っています。

(安田教育長)

様々な御意見もあるかと思いますが、保存や活用は教育委員会だけではなかなかできない部分も多々あります。その辺りを知事部局と連携しながら、観光なども含めて、話し合っていければ良いと思っています。

(佐竹知事)

文化財のうち、行事・祭りについては、宣伝・PR、先ほどの映像などによって相当脚光を浴びています。

ただ、私自身は、仙北市の角館の祭りは、観光客は来ても来なくてもいいと思っています。

商店街は観光客がほしいと思っているが、山車の担ぎ手からすると、運行上気になります。

横手の屋形船とか、アクティブなものには人が来るんですが、問題は番楽などの地味なものです。そういうものについては、非常に後継者が少ない。

また、建物に関しては、相当歴史的価値があるものでないと保存の費用もつきませんし、木造の建物はどうしても朽ちる限界があります。

日本中に城がありますが、今そのほとんどは鉄筋コンクリートづくりです。文化でも何でもありませんね。

ただ、行事的なもの、史跡的なものと、観光との

バランスをうまくとりながら保存することが大事です。

同じような祭りを、同じ時期に合わせてやるということをやったことがあります、だめでした。要するに、角館の祭りと別の祭りを一緒にやったら、途中でけんかになるのです。

宗教行事ですから、それをしっかり守っているところは、やっぱり続いています。観光資源という側面ばかりになってしまうと、だめになってしまうんですね。そこが非常に難しい。

PRに関しては私も龍角散のCMをやっています。あと映像は、角館、かまくら、花火などメジャーなものはNHKなどに全部ありますが、メジャーでないものはやはり無いです。昔、ビデオを作ったことはありますが、大分古い。

いずれ、教育委員会だけではなく、市町村、文化団体、県など、関係者が連携しないとなかなか進まないと思います。

大綱改正

(佐竹知事)

次第に掲げる議題は以上ですが、平成30年度に策定した「秋田県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱」を一部改正する必要があります。

これについて、事務局から説明願います。

(坂本総務課長)

「秋田県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱」の一部改正について、資料3・資料4を御覧ください。

大綱の改正については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、総合教育会議において協議を行うこととされています。

県の「ふるさと秋田元気創造プラン」及び「あきた未来総合戦略」のうち、教育、学術及び文化に関する部分を、この大綱に替えることとしています。

今年度から「第2期あきた未来総合戦略」がスタートしましたので、その該当部分を引用することにしたいと思います。

今回の改正案の内容については、お手元に配付して

いる新旧対照表のとおりでありますので、よろしくお
願います。

以上です。

(佐竹知事)

このように改正してよいでしょうか。

(委員一同了)

では、案のように改正をさせていただきます。

短い時間でしたが、頂いた御意見については、この
後まとめて、十分に検討しながら、今後の施策に生か
していきたいと思えます。

閉 会

(神部総務部長)

様々な観点から御議論いただき、どうもありがとう
ございました。

以上をもちまして、令和2年度第1回秋田県総合教
育会議を閉会いたします。

お疲れ様でした。

※ 教育委員会の説明は、一部スライドを用いて行
いました。